

大阪大学図書館報

Vol. 22 No. 2 & 3 Sept. 1988 (昭63年) 通巻93号

- 情報化の進展と大学図書館
 ○大型計算機センターの大坂大学学術雑誌データベースの検索サービス開始について
 ○学術情報センターの電子メールシステムサービスについて
 ○「大坂大学附属図書館図書館資料の不用図書決定及び廃棄に関する処理要領」「図書館資料の不用決定及び廃棄の事務手続」について

次

- 昭和62年度主題別利用統計について
 ○大坂大学附属図書館館報発行要領について
 ○いちょう祭展示会開催
 ○会議　○日程
 ○人事
 ○統計(図書館の概況)

情報化の進展と大学図書館

都倉信樹

本図書館報の前の号、92号(63.4.1発行)には、本附属図書館の課名が次のように変更になったとの記事がある。

国立学校及び国立短期大学の事務局等の部及び課に関する訓令の一部を改正する訓令(昭和63年文部省訓令第16号)の規定により昭和63年4月8日付で、

整理課を	情報管理課に
閲覧課を	情報サービス課に

それぞれ変更する。

その理由の説明はないが、やはり、図書館業務にもそれだけの変化があったということと、これから図書館を考えるときにその業務や図書館のありかたが変わっていくということをとらえてのことであろう。以前からの「閲覧室」とかの言葉もなつかしいものになっていくのであろうか。

たしかに、情報関連機器の進歩は急速で、その機能をフルに生かすことで、よりよいサービス、あるいは、これまでにない新しいサービスが可能になるのではないかとは誰しも思うことである。ここでは、一利用者の立場から図書館とのかかわりをふりかえり、今後について考えてみたい。

入学時はまだ現在の本館はなかった。蔵書も少なく読みたい本もとぼしかったが、それでも図書館へはよく出入りした。教養2年のときに本館ができる、その真新しい書庫で一冊の本を見つけた。アメリカの教科書の翻訳で、ニューマス(新しい数学)の一冊らしいが、読

みやすくて、また、新鮮な内容で夢中になって読んだことが思いだされる。それ以後、東野田にいき、電気系の図書室にかなりよく行った。しかし、実験や講義の助けになるような手頃な本はあまりなく（大阪と神戸にあった）アメリカ文化センターの図書室をよく利用した。工学系の参考書も充実していたし、冷房があるというのも魅力的であった。また、当時、ケネディが速読術に長けているというニュースがあり、係りの人にそういうことを書いた本はあるかと聞いたところ、あつという間にかなりの冊数の本をリストしてくれたのに大いに感激した。レファレンスサービスというのをはじめて経験したのであった。大学院に入ったとき電気系の図書室の書庫に入ることが許されたことは大きな感激であった。導入されたばかりのコピーマシンをよく利用しにいった。基礎工の職員になってからは、基礎工の図書室へ新着の雑誌の論文探査に定期的にでかけたが、書庫の蔵書は貧弱で借りたいと思うものはなかった。新しい書物は各研究室で所蔵していたからである。研究室で本の選定をまかせられるようになり、かなり幅広く、あまり遠慮せずに買ってもらった。雑誌も多くのタイトルを購入しており、研究室でほとんどの用は足りる状態になっていた。そういうことで、共通の図書室、図書館はあまり利用することもないという状態が現在まで続いている。一度、基礎工の公開講座のために計算機関係の統計などを求めて本館へ行ったことがある。見つけた資料はもう筆写する必要はなかった、コピーサービスが利用できた。

アメリカの大学図書館を利用したこともあるが、開架式であること、ゆったりした自習スペースや閲覧室があり、貸し出しサービスもきめこまかく、利用しやすかった。特に、州立の大学の場合は、夜間も開いており一般市民も利用できるのに感心した。また、計算機科学科の図書室をよく利用したが、その司書が非常に専門に明るく適確なキーワード抽出と分類をしていたことと、配架がうまく検索がしやすい（kwicインデックスが計算機出力の形でおいてあり、検索が非常にしやすかった）、新着のレポートや、業界雑誌新聞なども配して、学生や教員を引きつける魅力をそなえていたこと、貸し出し予約をしておくと自動的に配本されてくるサービスなどもよかったです。

最近、ある日本の私立大学の図書館を見学した。計算機を活用した図書館を目指しており、個別カードによる入退館管理、蔵書の検索はもちろん、貸し出し業務、延滞者への督促、全国的なデータベースへのアクセスなどもできるようになっていた。全国の地元紙を集め、学生が出身地のニュースにふれることができる。また、多数のビデオ教材や、テープ教材を用意し、数多くある専用ブースで自由に利用できるようにしており、これも利用者が多いようであった。（民博のビデオサービス同様のロボットによる自動サービス）。また、その大学では、各専門ごとにサブジェクトライブラリアンとよぶ教官が図書館内にオフィスをもち、学生の読書指導に当っており、また、入学時に図書館の利用法についてガイダンスをおこなって、学生に図書館を有效地に利用するように指導しているという。

個人的な回想ではあるが、いくつかの図書館の姿をふりかえり紹介した。さて、図書館にもいろいろあり、どういう目的でそれが設置されたかにより運営の仕方やサービスの内容も違ってくるのは当然である。本学の図書館の場合、その任務は3点あるという。研究用図書館、学習用図書館、そして、蔵書資料の保管収納である。第3の機能は国有財産としての蔵書資料を管理し、利用に供することであるが、情報爆発といわれるよう、図書雑誌の増加は指数的であり、ごく近い時期に収納スペースがつきてしまうという問題がある。その解決は緊急の課題であるが、その時出る案は、光ディスクなどに記録するという案である。しかし、これもそう簡単なことではない。マイクロフィッシュが実際には全面的には採用されないように、単に光ディスクだけを導入しても問題は解決しがたいであろう。いくつかの問

題点をあげておく。〈品質〉白黒で、分解能も場合によると満足できないかもしれない。〈取扱い〉ある事業所で書類を光ディスク化したが、倉庫から光ディスクをはこんでいて、機械に装填するというところは人手を要し、途中でディスクをおとして、貴重なデータが失なわれてしまったとか、最初、記録するのに膨大な手間がかかるなど苦労したという。また、開架式のように、パラパラとみて本を探すことができない。この点は、本のもっている良さであり、それを再認識するというようなこともおこりそうである。利用者の利便と運営のしやすさを考えたシステム作りでなければ失敗することは多くの事例が示している。

学習用図書館機能：以前は府立中之島図書館の行列などということがニュースになったが、最近は日本ではこういう現象はないらしく N I E S の図書館の様子が報道されたりする。図書館をどう利用するかということの指導とどういう本をえらべばよいかという指導、そして、図書館の快適性が問題となろう。上にあげた私立大学の取り組みはその問題に対するひとつの解答であろう。しかし、活字ばなれのいわれる現在、図書館は単に本や雑誌をならべて利用者がくるのを待つという形態では利用者減は避けられないかもしれない。新しいサービスが必要となるであろう。次の機能とあわせて考えていくきたい。

研究用図書館機能：これも研究内容によって要求がかなりまちまちである。前号では経済学の立場から、新開教授が、図書館と経済学の関係はなかなか深いということをのべておられるが、工学系の場合は、情報の鮮度が重要であり、10年以上昔の文献が必要となることはきわめてまれである。ただ、どの分野でも共通して言えそうなことは、研究のスピードも情報の伝達のスピードにつれて早くなっているということであり、最新の情報を入手することが、非常に重要になってきている。とすれば、従来の一年以上かかるて活字化される雑誌は最近の電子メールや、電子ニュースの機能の前には速報性という点からは完全に負けてしまう。情報化は時間と距離のへだたりを小さくするものであるが、地球的な規模ではりめぐらされたネットワークを通して、最新の情報が入手できる段階にいたっている。そういう鮮度の高い情報を提供するシステムとの連係が今後の図書館の姿であろう。現在、学術情報センターを中心に、蔵書情報などのデータベース化がすすめられつつあり、全国の大学の蔵書の検索もできるようになる。現在計画中の学内ネットワーク（O D I N S 計画）が実現すれば、各研究室でそのネットワークに接続したパーソナルコンピュータやワークステーションで、情報検索や、メールが利用できるようになろう。このとき、情報検索は自分の居るところから、隨時できるという意味で、時間と距離が短縮されることになる。そして、他大学や国会図書館にある資料をファックスやコピーなどで入手できる。そういうサービスがこれからの大図書館の業務になる。保管に要するスペースが限界にくるときの一つの解決は、おなじ資料を全大学が所有するということはあきらめ、図書館はある分野に専門化して、蔵書構成をおこない、それを共同利用するということであろう。ただし、これにも問題は多くあるので、今後よく検討する必要はある。グローバルな経済性だけでなく、利用者の利便を忘れてはならない。利用者の訪れない、微くさい蔵書のピラミッドと化しては、図書館は単なる自動化倉庫にすぎないであろう。図書館は情報の発信基地としての立場も必要になるのではないだろうか？ たとえば、メールやニュースだけではカバーできないメディアで最新情報を提供する。学内の専門家の協力をえて、レファレンスサービスなどをネットワークを介して提供するV A L (value added library) ともいるべき機能も総合大学の強みとなるのではないか。大学の構成員の文化的な活動拠点として、展示施設、コンサートのできるような場も提供するなど。

かつては、大学図書館は大学の中心として、もっとも立派な建物にあったが、その象徴的

意味はうすれつつあるのだろうか。シンボルをもたないといわれる阪大にとって、総合大学の利点を生かした、大学の活力の中心としての大学図書館をめざすというはどうであろうか。

(とくら のぶき 基礎工学部教授)

大型計算機センターの大阪大学学術雑誌データ・ベースの 検索サービス開始について

8月1日(月)より、附属図書館に所蔵している学術洋雑誌の最新所蔵情報が、研究室などにある端末機からオンラインで検索できるようになりました。大阪大学の大型計算機センターのシステムを使って、雑誌をキーワードなどで検索し、それが大阪大学で所蔵されているか、どこに所蔵されているか、またその所蔵巻号などを知ることができます。この所蔵情報は図書館の日常業務により日々更新されていますので、できるだけ最新の情報をお届けするようにします。

データの性格から当面は洋雑誌に限っております。和雑誌はただいまデータ作成中です。洋雑誌にふくまれるものはつぎのとおりです。

内容が欧文で表記されている雑誌〔米、英、仏、独など〕を含みます。また、キリル文字で表記されている雑誌〔露など〕も、ローマナイズして収録しています。その他、たとえば「GANN」などの欧文と日本文が入り交じっている雑誌も含みます。

この検索サービスを利用するには、大型計算機センターに利用申請をしておく必要があります。利用資格は、「大学又は高等専門学校の教員及びこれに準ずる者」などとなっています。大学院学生は「これに準ずる者」に該当し、利用資格を有することとなります。この利用申請についての詳細は大型計算機センター共同利用掛（吹田地区内線2814）にお問い合わせ下さい。

なお、大阪大学にない雑誌については学術情報センターのデータベースを検索して下さい。その雑誌が国内の他の大学図書館で所蔵されているか調べることができます。学術情報センターはこの大型計算機センターを使って利用できます。申込み方法、利用方法についてはNACIS-IRのパンフレットを御覧下さい。

ここでは簡単な検索に必要な最低限のことを述べております。この他に色々な機能があります。詳細は附属図書館情報管理課学術情報掛（豊中地区内線2330）にお問い合わせください。

では、このデータ・ベースの検索方法について説明します。

1. システムの呼出

a. 大型計算機センターTSSへ接続します。まず、「\$\$\$CON,TSS,,KNJ」などで端末機を計算機に接続します。大型計算機センター発行の「TSSの利用の葉」などを参考にしてください。接続したとの手続きを例示すると次のとおりです。

(下線部分は要入力部分, ↴は送信キー)

```
HANDAI TSS(R3.0) ON mm/dd/yy AT tt/mm/ss CHANNEL nnnn LU-XXXXXXX
USERID -XXXXXX ↴
PASSWORD--  

XXXXXX ↴
SHIHARAI-CODE ?X ↴
<<<< ... nnnnnn YEN RESOURCES USED ( AVAILABLE nnnnnnnn YEN ) >>>>
<<<< ... nnnnnn LLINKS FILE SPACE USED >>>>
**hh:mm:ss**TSS WILL SIGN OFF AT 22:00

SYSTEM ?
```

上記の SYSTEM? というプロンプトが出たところで T S S の接続は完了しました。

- b . 大型計算機センターの T S S システムに接続完了後、 O U L J というコマンドを入力します。

```
SYSTEM ?OULJ ↴
* * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
* [ここに、図書館からの案内や、システムの紹介を] *
* [表示します。] *
* * * * * * * * * * * * * * * * * * * * * *
```

この表示のあと、使用する VIEW を入力します。

- c . VIEW は JBHLD, JBIB, JHOLD を用意しました。

```
VIEW NAME? JBHLD ↴
STARTING OF RETRIEVE PROCEDURE.
COMMAND?
```

上記のように COMMAND? というプロンプトが出たところで、いよいよ検索の開始です。

2 . レコードの検索

このデータ・ベースで使用している項目名はつぎの通りです。

- a . VIEW が JBHLD のとき

NO	項目名	属性	説明
1.	BID	PKEY	書誌コード ユニーク・キーです。検索可能
2.	DS	TEXT	書誌記述部分 タイトル、出版事項中の語で検索可能
3.	CD	TEXT	コード部分 ISSN,CODEN,刊行頻度コード,学総目番号で検索可能
4.	PS		所蔵地区、所蔵箇所の表示 テキスト検索可能
5.	HD		所蔵範囲の表示 テキスト検索可能

DS 項目はタイトル、出版者、出版地の中の語で検索可能です。

b. JBIB と JHOLD の VIEW については〔表 4〕を御覧下さい。これらは、基本的にはレコードセットに対応した VIEW です。

3. キーによる検索

a. 一般形

SEA[RCH] 項目名 比較記号 比較式 (又は比較値)

a. 1 項目名は項目属性が RKEY, KEY, TEXT のものです。

a. 2 比較記号は次のものが使えます。

NO	比較記号	説明
1	E Q	= 等しいもの ex. COMMAND? SEA DS EQ MATHEMATICS ↴ COMMAND? SEA DS EQ MATH\$ ↴ (前方一致) COMMAND? SEA DS EQ MATHEMATICS AND PHYSICS ↴ COMMAND? SEA DS EQ MATHEMATICS OR PHYSICS ↴
2	N E	$\wedge =$ 等しくないもの ex. COMMAND? SEA DS NE JOURNAL ↴
3	N R	$: =$ もっとも近いもの ex. COMMAND? SEA CD NR AA00000010 ↴
4	G T	> 大きいもの ex. COMMAND? SEA CD GT AA00009999 ↴
5	G E	$> =$ 大きいか、等しいもの ex. COMMAND? SEA BID GE 1000060 ↴
6	L T	< 小さいもの ex. COMMAND? SEA BID LT 1099999 ↴
7	L E	$< =$ 小さいか、等しいもの ex. COMMAND? SEA BID LE 1000999 ↴
8	W L	$<>$ 範囲内(両端を含む) ex. COMMAND? SEA CD WL AA00000001:AA0000000010 ↴
9	O L	$><$ 範囲外(両端を含まない) ex. COMMAND? SEA DS OL 0000..9999 ↴
10	A D J	- 二つの比較値が隣接しているもの(間に不要語があってもよい) ex. COMMAND? SEA DS ADJ MATHEMATICAL:PHYSICS ↴

b. 前方一致を使うことが出来ます。後方及び中間一致は使えません。

記号は \$ です。ex. MATH\$, J\$, A A 00006 \$

4. テキスト検索

テキスト検索とは、属性が PKEY, KEY, TEXT と指定されていない項目にたいして行う検索で、さきにキーによる検索を行っておく必要があります。

テキスト検索は時間がかかりますので、ご了承ねがいます。操作方法はつぎの通りです。

COMMAND? SEA[RCH] ↴ … コマンド欄で SEARCH のみ入力します。

INQUIRY? #2 ↴ …… キー検索結果の集合番号をいれます。この集合に対してつぎで指定する検索を行います。

CONDITION? PS EQ NL ↴ 検索条件をいれます。

CONDITION? ↴ 検索条件入力を終了する。複数あるときはここで再度入力する。
COMMAND? [操作手順は 6. にとびます。]

5. 検索集合の操作

検索を行いヒットするレコード集合があると、システムはその集合に対して集合番号を付けます。そしてこの集合番号は次の検索に用いることが出来ます。

なお、集合番号には頭に#の記号がついています。

```
COMMAND? SEA DS EQ MATHEMATICS ↴
#1      101 RECORDS
COMMAND? SEA DS EQ PHYSICS ↴
#2      220 RECORDS
COMMAND? SEA #1 AND #2 ↴
#3      29 RECORDS
```

6. 検索結果の表示

検索結果に何の条件も付けずに表示する時は DISPLAY コマンドと集合番号をいれるだけです。

```
COMMAND? DIS 3 ↴
```

条件を付けるときは DISPLAY コマンドだけをいれます。すると以下の条件を聞いてきます。総て RETURN でやりすごすと、コマンドと集合番号をいれたのと同じ結果になります。

条件

COMMAND? <u>DIS[PLAY]</u> ↴	
<u>INQUIRY NUMBER?</u>	集合番号 無しの時は直前の集合
<u>DISPLAY STARTING POINT?</u>	表示開始レコード番号 無しの時は1
<u>DISPLAY COUNT?</u>	表示レコード件数 無しの時は全部
<u>DISPLAY FORM?</u>	NORMAL: 一行一項目 COMPRESS: 固定長項目を一行に複数表示する
<u>LINE LENGTH?</u>	画面横の字数
<u>DISPLAY ITEM NAME?</u>	表示したい項目名 無しの時は全部

7. ブラウジング機能

あるキーワードの前後の値およびその件数を通覧することが出来ます。

```
COMMAND? BROWSE ↴
TYPE OF BROWSE? KEYWORD ↴
ITEM NAME? DS ↴
STARTING KEYWORD-VALUE? MATHEMATICS ↴
```

また、これまで行ってきた検索の履歴を表示します。

COMMAND? <u>BROWSE</u> ↴	
TYPE OF BROWSE? <u>INQUIRY</u> ↴	
INQUIRY NUMBER? <u>2</u> ↴	表示開始位置 入力なしの時は1から
DISPLAY COUNT? ↴	表示件数 入力なしの時は全件

8. 初心者用 (AUTO) コマンド

これは、自動的に「ブラウジング」→「検索」→「表示」を行うコマンドです。操作に不慣れな利用者のために用意されています。

COMMAND? AUTO ↴

コマンド欄でAUTOと入力します。

ブラウズするかどうか聞いてきます。

BROWSE? ('1':YES,'2':NO) 1 ↴

1:YESと応えると、ブラウジングのパラメータ入力に変わります。

TYPE OF BROWSE? KEYWORD ↴

ITEM NAME? DS ↴

STARTING KEYWORD-VALUE? LITERATURE ↴

KEYWORDと入力して、キーワードのリストを見ます。

項目名をVIEWの項目のなかから選び指定します。たとえばDSと入力します。

つぎに、リストアップしたいキーワードを入力します。

このことは、7. のキーワードの通覧と同じです。

キーワードの表示があったあとは、つぎのように操作して下さい。

CONTINUE? (1:YES 2:NO) 2 ↴

TYPE OF BROWSE? ↴

BROWSE? ('1':YES,'2':NO) 2 ↴

つぎに検索条件を入力します。3. のキーによる検索の一般形の「項目名 比較記号 比較式（または比較値）」を入力します。

INQUIRY? DS EQ LITERATURGESCHICHTE ↴

#01 7 RECORDS

INQUIRY? ↴

INQUIRYのとき、マキーのみの入力で検索条件の指定を終了します。

つぎに、表示するかどうか聞いてきます。1:YESと応えると、表示のパラメータを聞いてきます。

DISPLAY? ('1':YES,'2':NO) 1 ↴

INQUIRY NUMBER? 1 ↴ 集合番号を指定します

DISPLAY STARTING POINT? 表示開始レコード番号 無しの時は1

DISPLAY COUNT? 表示レコード件数 無しの時は全部

DISPLAY FORM? NORMAL: 一行一項目

COMPRESS: 固定長項目を一行に複数表示する

LINE LENGTH? 画面横の字数

DISPLAY ITEM NAME? 表示したい項目名 無しの時は全部

このあと検索結果を表示します。表示のあと(DISPLAY?)に対し2:NOを入力し、AUTOコマンドを終了します。

9. 検索例

_____部分を入力します。

SYSTEM ?QULJ?

⇒検索システム呼出し

```
*****  
* [図書館からのメッセージなどを  
* 表示します。]  
*****
```

VIEW NAME? JBHLD?

⇒ビュー名を指定。

STARTING OF RETRIEVE PROCEDURE.

COMMAND? SEARCH DS EQ MATH\$ AND PHYS\$? ⇒検索コマンド、二語前方一致の論理積

#01 137 RECORDS

COMMAND? SEARCH DS EQ JOURNAL AND #1? ⇒#1の集合中 JOURNAL という語をもつものを検索

#02 16 RECORDS

COMMAND? SEARCH CD EQ M AND #2? ⇒そのうちの月刊のものを指定

#03 2 RECORDS

COMMAND? DIS 3? ⇒集合#3を表示

#03 2 RECORDS

BID 1064192
1/2

DS JOURNAL OF MATHEMATICAL PHYSICS. - 1960- -NEW YORK

CD 0022-2488 FRQ: M NC: AA00701758 HLD

PS (S) LAGE

HD 1(1960)-14(1973)

PS (T) SCPQ1

HD 1(1960)-11(1970)

PS (T) GEPH

HD 3(1962)-26,27[1-6](1986)

PS (T) SCML

HD 1(1960)-26,27[1-6](1986) ----- 27巻は1から6号までしかない

PS (T) ESA

HD 1(1960)-17(1976)

PS (T) PTL

HD 11(1970)-18(1977)

PS (S) TEAGE

HD 24(1983)

PS (T) SCL

HD 24(1983)-26,27[1-6](1986)

BID-書誌コード

DS-・誌名

・創刊年

・出版地

CD-ISSN

FRQ:は刊行頻度([表3]参照)

NC:はNational Center Code

HLDは阪大所蔵を意味する。

PS-所蔵箇所([表1~2]参照)

HD-所蔵巻号

BID 1064391
2/2

DS JOURNAL OF PHYSICS. A: MATHEMATICAL AND GENERAL. - 1968- - LONDON

CD 0305-4470 JPHACS FRQ: M NC: AA00704847 FA00890000 HLD

PS (T) CL

HD 1(1968)-2(1969)

PS (S) SIL

HD 1(1968)-15,16[6-18](1983)

PS (S) TEAGE

HD 1(1968)-15,16[1-18],17[1-18],18(1985)

PS (T) CLYK

HD 1[1-4,6](1968),2(?????)

(????) = データ上発行年が不明となった

PS (T) SCL
HD 16(1983)-18,19[1-8](1986)

COMMAND? SEA DS EQ LIBR\$?

#04 197 RECORDS

COMMAND? SEA CD EQ HLD AND M AND #4?

#05 7 RECORDS

COMMAND? SEA DS EQ LONDON AND #5?

#06 2 RECORDS

COMMAND? DIS 6?

#06 2 RECORDS

1/2

BID 1057755

DS ASLIB PROCEEDINGS. / ASSOCIATION OF SPECIAL LIBRARIES AND INFORMATION BUR
EAUX - 1949- - LONDON

CD 0001-253X FRQ: M NC: AA00039544 HLD

PS (T) CL

HD 26[2-9,11-12](1974),27[1-6,8-12],28-34,35[1-10],36-37,38[3-6](1986)

10号が欠号

2/2

BID 1077264

DS BRITISH LIBRARY NEWS - LONDON

CD 0307-9481 FRQ: M NC: AA00101546 HLD

PS (N) NL

HD 91(1983)-99,103-106,108,110,112-113(1986)

100から102号が欠

COMMAND? B?

⇒ここで DONE と入れると SYSTEM? にとびます。

PROCEDURE? DONE?

⇒これで検索システムを終了します。

SYSTEM ?BYE?

⇒これで TSS システムからはなれます。

10. 所蔵箇所および利用方法について説明します。PS に表示されている (T) 等は、阪大のキャンパスをあらわし、そのつぎの L A G E や P T L などは所蔵箇所をあらわします。所蔵箇所は上二桁で部局をあらわします。

求めている雑誌の所蔵がわかったら、所蔵箇所のコードなど必要事項をメモして最寄りの図書館においてください。

つぎに、各コードについての一覧をのせておきます。

[表1] キャンパスの表示

(T)	豊中キャンパス	(S)	吹田キャンパス	(N)	中之島キャンパス
-----	---------	-----	---------	-----	----------

〔表2〕 部局など〔所蔵箇所の上二桁 利用については最寄りの図書館へ〕

BI	微生物病研究所 および同附属病院	IC	情報処理教育センター	NL	附属図書館中之島分館
CC	大型計算機センター	JU	法学部	PH	薬学部
CL	附属図書館本館	KB	極限物質研究センター	PI	蛋白質研究所
DE	歯学部	KC	工作センター	PL	附属図書館薬学部分館
DH	歯学部附属病院	LA	レーザー核融合研究センター	PT	医療技術短期大学部
EC	経済学部	LC	言語文化部	RI	ラジオアイソトープ総合センター
EI	社会経済研究所	LO	低温センター	SC	理学部
ES	基礎工学部	LT	文学部	SI	産業科学研究所
GE	教養部	MC	細胞工学センター	SL	附属図書館吹田分館
HA	健康体育部	ME	医学部	TE	工学部
HU	人間科学部	MH	医学部附属病院	UC	超高压電子顕微鏡センター
		NC	核物理研究センター	WI	溶接工学研究所

〔表3〕 刊行頻度〔CDの中のFRQ:で表示〕

IR	不定期(年1回未満)	Q	季刊	SM	半月刊
IO	不定期(年1回以上)	5Y	年5回	BW	隔週刊
BA	隔年刊	BM	隔月刊	3M	旬刊
A	年刊	SQ	年8回	W	週刊
SA	半年刊	TY	年10回	SW	半週刊
3Y	年3回	M	月刊	D	日刊

〔表4〕 VIEWの説明

(1) VIEWがJBIBのとき

NO	項目名	属性	説 明
1.	BID	PKEY	書誌コード ユニーク・キーです。検索可能
2.	ISSN		ISSN 記述項目 テキスト検索可能
3.	CODEN		CODEN 同上
4.	CNTRY		発行国コード 同上
5.	PUBNO		年間刊行冊数 同上
6.	FREQ		発行頻度 同上
7.	PUBF		巻建区分 同上
8.	BIBC		書誌区分 同上
9.	KIND		雑誌一次二次区分 同上
10.	CONT		内容コード 同上
11.	PUBC		出版区分 同上
12.	LAN		言語区分 同上
13.	TRANS		翻訳誌コード 同上
14.	TITLC		誌名区分 同上
15.	FORM		資料形態区分 同上
16.	SIZE		版型 同上
17.	POSIT		上位誌名中の位置 同上
18.	OLANG		原著言語 同上
19.	GID1		学総目番号1 同上
20.	STRT		創刊年 同上
21.	END		終刊年 同上
22.	GID2		学総目番号2 同上
23.	TI		タイトル 同上
24.	CO		発行団体名 同上
25.	PL		出版地 同上
26.	VN		出版社 同上

27.	AB		略誌名	同上
28.	OID		原誌書誌コード	同上
29.	CL	KEY	分類番号	検索可能

(2) VIEWがJHOLDのとき

NO	項目名	属性	説明	
1.	HID	PKEY	所蔵ユニ-ク・キー	検索可能
2.	BID	KEY	書誌コード	検索可能
3.	POS	KEY	所蔵コード	同上
4.	RGN		地区コード	記述項目 テキスト検索可能
6.	TC		継続区分	同上
7.	HC		所蔵区分	同上
8.	CC		目録区分	同上
9.	PS		所蔵箇所記述	同上
10.	HD		所蔵記述	同上

(学術情報掛)

学術情報センターの電子メールシステムサービスについて

学術情報センターでは、この4月から大学の研究者などの利用に供するため、電子メールシステム（NAC SIS-MAIL）のサービスを開始しました。電子メールは、コンピュータの通信機能を利用した郵便で、端末を使っていつでもどこからでも、手紙より早く郵便よりも確実に文書を交換できます。また、一度に複数の人に同じメッセージを送ったり（同報）、受信者が受け取ったかどうかの確認（配信通知）、送信可能な宛先の名称を表示するなど、いろいろなサービスを利用するすることもできます。さらに、将来の国際間メール交換も可能なよう国際標準方式を採用しています。

電子メールによる文書の送信・蓄積・受信の手順は次のとおりです（次頁参照）。

- ① 発信者が端末でメッセージを作成し、電子メールシステムへ送信する。
- ② 送信されたメッセージは、電子メールシステムのメールボックス（郵便箱）に蓄積される。
- ③ 受信者は、端末を使って電子メールシステムからメッセージを受信する。

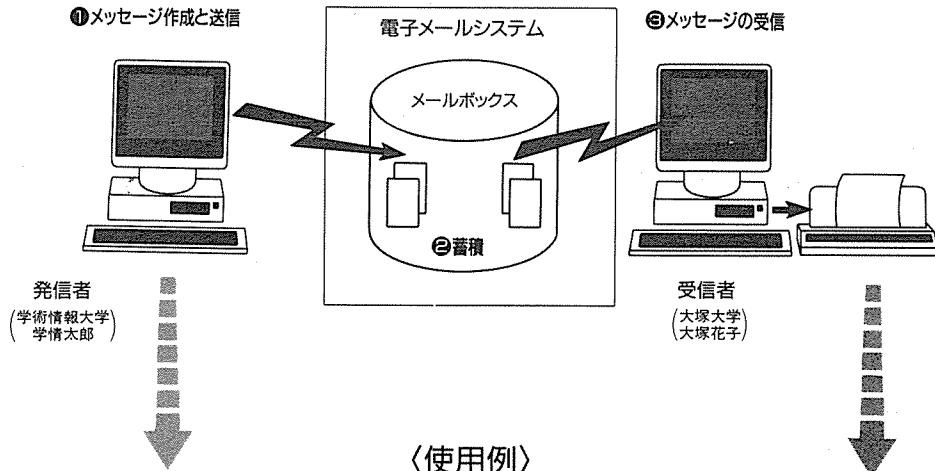
電子メールシステムを利用するための接続方法は、大別すると次の2つになります。

- ① 研究室などの端末から公衆電話回線を通じて、学術情報センターの電子メールシステムに接続する方法（直接接続）。
- ② 大型計算機センターなどの計算機を通じて、学術情報ネットワークや大学間コンピュータネットワーク経由で接続する方法（ネットワーク接続）。

このシステムを利用できるのは、大学などの教職員・大学院生で、学術研究およびその支援業務のために使用する場合に限られます。利用時間は原則として24時間の通年サービスで、利用料金は当分の間無料となっています（但し、接続方法により電話料金や大型計算機センターの利用料金が必要となる場合があります）。

利用手続きには、①利用申請書を直接学術情報センターに提出する方法と、②学術情報センターの情報検索サービス（NAC SIS-IR）に利用登録した後にコンピュータにより申請する方法があります（大型計算機センターを通じて接続利用する場合は、前もって大計センターの利用申請をして承認を得る必要があります）。詳細については、「電子メールシステム利用の手引き」が本館・中之島分館・吹田分館の参考カウンターにありますのでご覧ください（利用申請書もあります）。

(学術情報掛)



SYSTEM ? SIMAIL
***** MHS START *****
MHS5117 バスワード入力
MHS5117 A S A S W O R D
MHS5001 R 送り先 SLENJO OR R[END] ? S
MHS5009 R 組織名 ? 大学生会
MHS5010 R 既読名 ? 理学院
MHS5011 R 既読名2 ? 情報学科
MHS5014 R 既読名3 ? 会員 42
MHS5014 R 既読名4 ?
MHS5010 R 既読名5 ?
MHS5009 P 組織名 ?
MHS5009 P 既読名 ?
MHS5005 S 第1回学情情報研究会の開催通知
MHS5005 R ノル テキスト ?
■ 第1回学情情報研究会の開催のお知らせ
■ 下記のとおり開催日を変更いたしますのでご了承下さい。
■ 本年は、学情情報研究会の開催場所を「新館」(別館)に変更いた
■ 事務 宇都宮市立大学新館(新館) 公開式(別館開業)
■ 内容 本会議室の運営方針について他

MHS5007 R オブジェクト ? DN
MHS5007 R オブジェクト ?
MHS5116 R メールを受け付きました
MHS5112 L IPアッセイ識別子: IP 020502191019 発信時刻 10:19:06

SYSTEM ? SIMAIL
***** MHS START *****
MHS117 I バックストップル
MHS001 R [PUSH] [STOP] OR [READ] ? R
MHS002 R メールタイプ [SEND] , [RECEIVE] OR [DELIVERY] ? R
MHS101 I 会員登録一覧数 : 1 ランテン長 : 520
MHS104 I 兼務者 : 生物情報大系/生物学系/生物情報科学/学情 太郎
MHS105 I 主題 : 第1回生物学情報研究会の開催通知
MHS003 R [DISPLAY] OR [ERASE] ? D
MHS102 I メッセージ ID : 0000 メッセージ長 : 250
<オブジェクト>
発信者ID: 88/02/19 10:19:06
コンピュータ名: P2
オリジナルタイプ: LASキスト
オリジナルタイプ: テキストクス
既読表示: 未読
件名: 第1回生物学情報研究会の開催通知
発信者: 学情研究大系/生化学系/生物情報科学/学情 太郎
主題: 第1回生物学情報研究会の開催通知
<メッセージ本文>
第1回生物学情報研究会の開催のお知らせ
下記のとおり研究会を開催しますのでご参考下さい。
日時 明和63年4月1日(金) 午後2時から午後5時
場所 生物情報大系会議室(別棟2階)
内� 生物研究会の運営について
***** END *****
MHS003 R [DISPLAY] [ERASE] ? DONE

「大阪大学附属図書館図書館資料の

不用決定及び廃棄に関する処理要領

「図書館資料の不用決定及び廃棄の事務手続」について

このたび標記「要領」及び「事務手続」が下記のように定められましたので報告します。今後本学における図書館資料の不用決定及び廃棄については本要領、事務手続によって行われることになります。

大阪大学附属図書館図書館資料の不用決定及び廃棄に関する処理要領

昭和 63 年 9 月 13 日

附属図書館長裁定

大阪大学附属図書館が所管する図書館資料について、文部省所管物品管理事務取扱規程第28条及び第29条の規定に基づき不用決定及び廃棄をしようとするときは、次の要領により行うものとする。

(適用範囲)

第1. 本処理要領において、図書館資料（以下「資料」という。）とは備品として登録された図書、雑誌及び特殊資料をいう。

(不用の決定の基準)

第2. 附属図書館分任物品管理官（以下「分任物品管理官」という。）は、次の各号の一つに該当する場合において不用の決定をすることができるものとする。

- (1) 長期にわたる頻繁な使用等により汚損若しくは破損がはなはだしく、補修を行うことが不可能なとき、又は、補修に要する費用が当該資料の購入費等より高価であると認めるとき。
- (2) 資料の内容が逐次改訂され、又は、改版等により利用価値を失い、かつ保存の必要がないと認めるとき。
- (3) 一定期間の利用を目的として取得された資料で、時日の経過によって利用価値を失い、かつ保存の必要がないと認めるとき。
- (4) 学内又は他の国立大学等において供用換又は管理換により適切な処理が出来ないと認めるとき。

(不用決定の要件)

第3. 分任物品管理官は、資料の不用決定をしようとするときは、当該地区の運営委員会の議を経て、これを行うものとする。

(不用決定の事務手続)

第4. 不用決定の事務手続きは、大阪大学物品管理事務取扱要領に定めるところにより行うものとする。

(廃棄の基準)

第5. 分任物品管理官は、不用決定をした資料のうち、次の各号の一つに該当する場合において廃棄するものとする。

- (1) 売払価格が当該資料の売払いのために要する費用に満たないと認めるとき。
- (2) 売り払うことにより、国に損失を招くおそれがあると認めるとき。
- (3) その他資料を売り払うことが不利又は不適当と認めるとき。

(その他)

第6. 大阪大学物品管理事務取扱要領第22及び第23に定める不用決定の承認及び売払又は廃棄のための措置請求・決議書により決裁を得るものとする。

売払又は廃棄処分にした資料の閲覧用カード目録及び事務用カード目録については摘出のうえ別に保管するとともに、所蔵管理システムに登録されているものについては消去するものとする。

なお、資料に押印してある蔵書印については、所定の消印で抹消するものとする。

附 則

この要領は昭和63年9月13日から施行する。

図書館資料の不用決定及び廃棄の事務手続

昭和 63 年 9 月 13 日 附属図書館長裁定

「大阪大学附属図書館図書館資料の不用決定及び廃棄に関する処理要領」(以下「要領」という。)の定めるところにより、次の事務手続を行う。

(不用対象資料摘出)

1. 資料摘出にあたっては、副本所蔵調査、新刊、増刷の調査及びこれらに該当しないものの調査を行う。
2. 1.により摘出した資料のリストを作成し、関係分野の部局選出の図書館委員会委員に意見を求め、「要領」の手続きを経る。

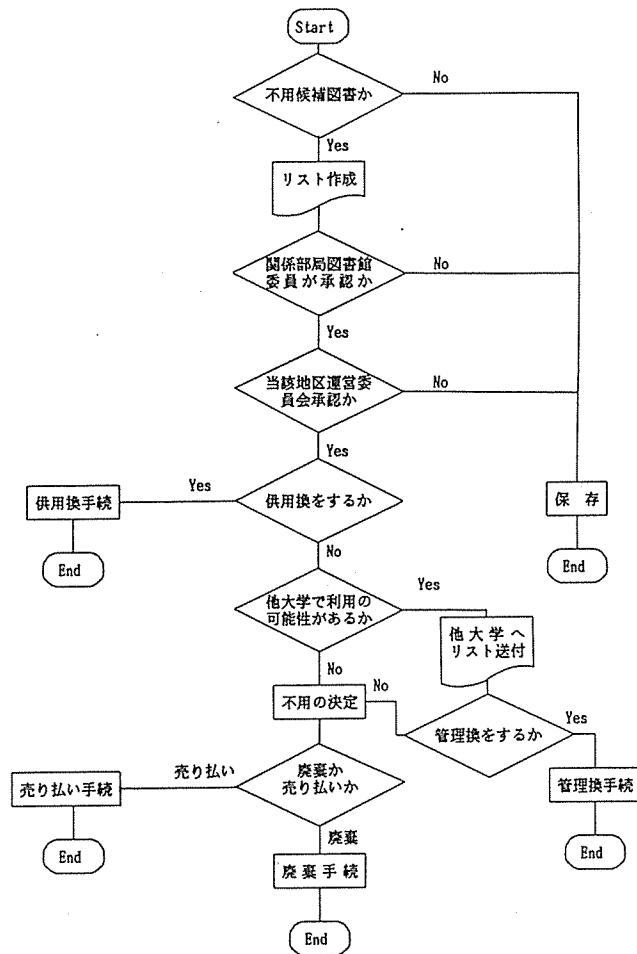
(不用決定後の事務手続)

1. 大阪大学物品管理事務取扱要領第22及び第23に定める不用決定の承認及び売払又は廃棄のための措置請求・決議書により決裁を得る。
2. 決裁を得た当該資料は物品管理簿(甲)より抹消し、閲覧用カード目録、事務用カード目録をそれぞれ摘出し別置するとともに、所蔵管理システムにより廃棄手続をする。
3. 決裁を得た当該資料に押印してある蔵書印は、所定の消印で抹消する。

この事務手続きは昭和63年9月13日より実施する。

この処理要領を流れ図化すると次のようになる。

図書館資料の不用決定及び廃棄に関する処理要領(流れ図)



昭和62年度主題別利用統計について

昨年度(昭和62年度)本館で機械処理によって短期貸出をした冊数は84,788冊である。

次に掲げる「昭和62年度主題別利用統計」は、短期貸出をした冊数を主題別に示したものである。

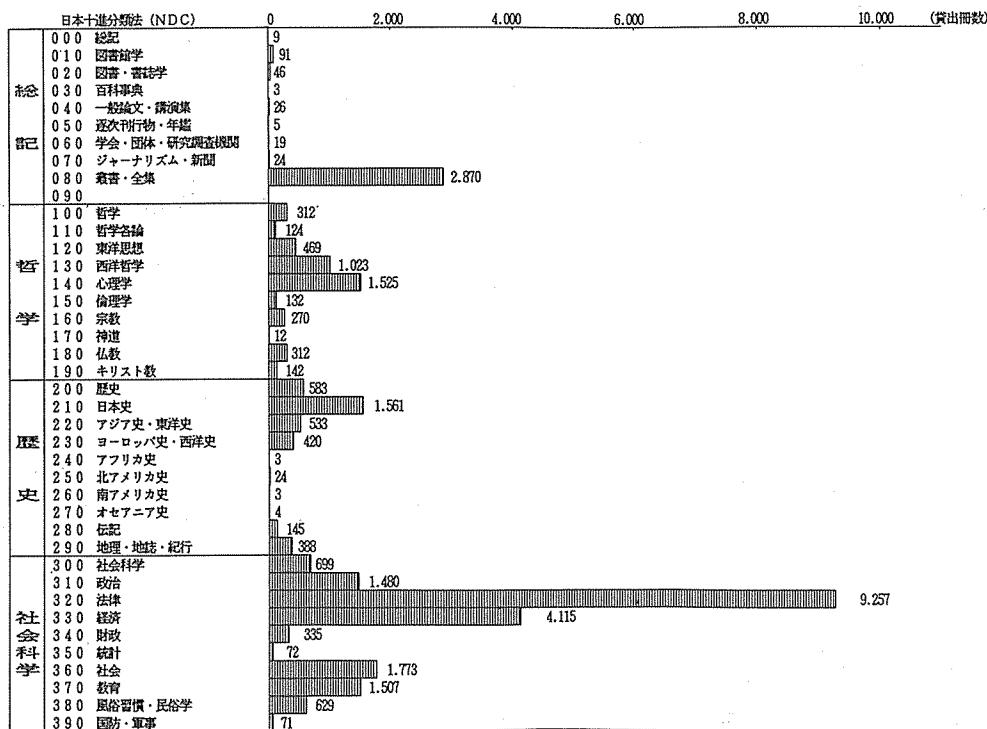
この表によると最も多いのが物理(9,990冊)であり、次に法律(9,257冊)、数学(8,984冊)、化学(5,596冊)の順になっている。

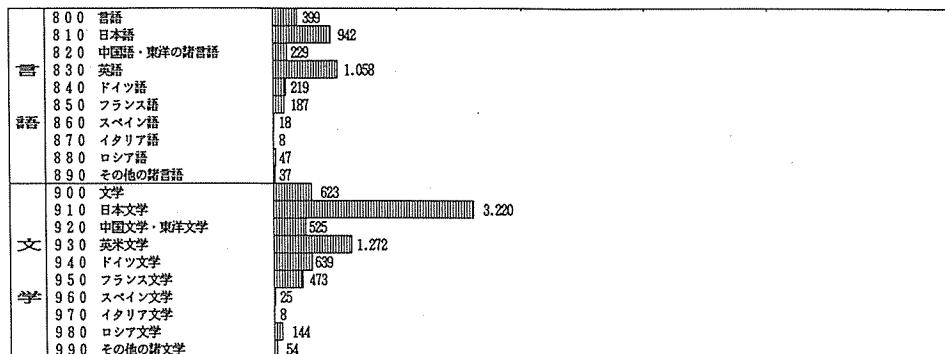
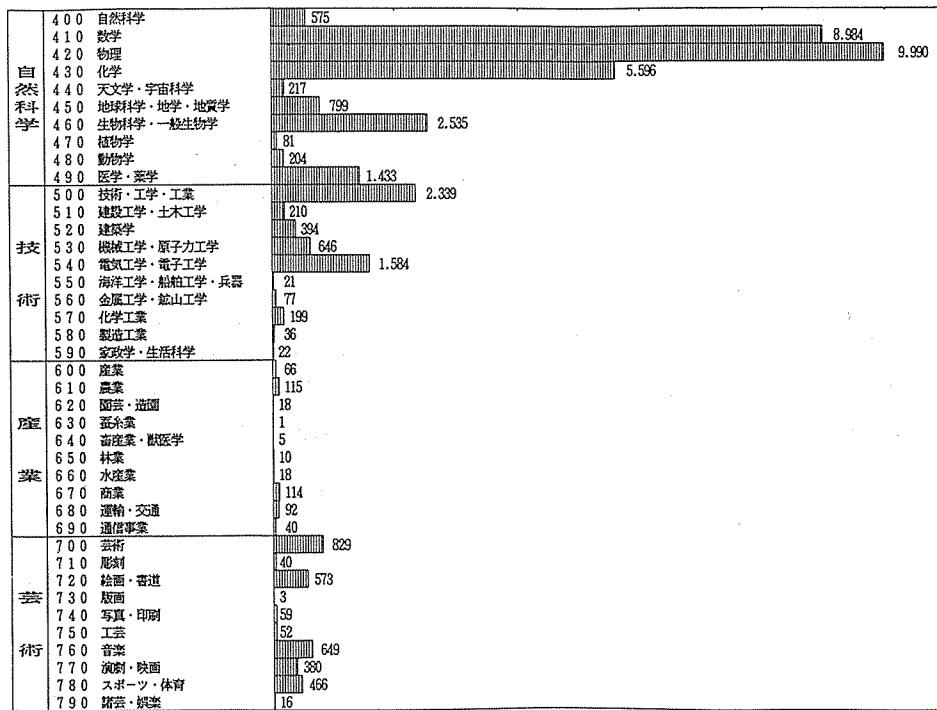
一般的には、法律を含む社会科学分野の貸出が多いのであるが、むしろ出版点数の相対的に少ない物理、数学、化学等の自然科学分野の貸出が社会科学全体の19,938冊に対して30,414冊で、比率にすると1:1.5になる。

このことは「学部別、身分別貸出比率」においても言及しているように、学部別貸出比率にも表れている。

これは身分別貸出比率において教養部学生の貸出が多いことに原因していると考えられる。

昭和62年度 主要別利用統計(本館)





学部別・身分別貸出比率

昭和62年度の機械処理による短期貸出総冊数（開架・書庫）を学部別・身分別で貸出比率を比較すると次のような状況となっている。

1. 学部別貸出比率

学部別では、基礎工学部が16,648冊(19.6%)、文学部15,484冊(18.3%)、法学部13,796冊(16.3%)、理学部11,689冊(13.8%)、工学部9,321冊(11.0%)、経済学部、人間科学部……の順となっている。

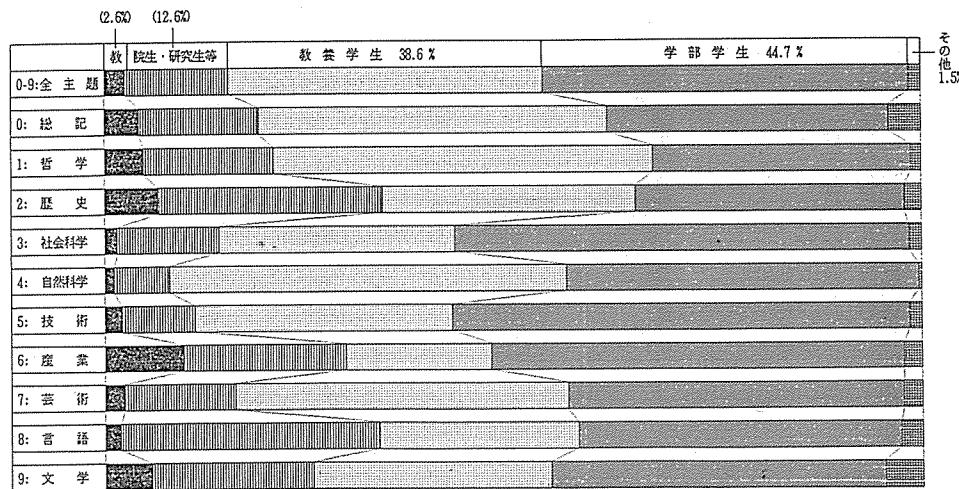
2. 身分別貸出比率

学部学生が最も多く、37,883冊で44.7%を占めている。主題別では、技術・社会科学・産業の分野が多く貸出されている。教養部学生は32,735冊(38.6%)で、主題別では自然科学・哲学・総記・芸術の分野が多く貸出されている。院生・研究生は10,652冊(12.6%)で、言語・歴史・産業・文学の分野が多くなっており、以下教官2,181冊(2.6%)、その他1,337冊(1.5%)となっている。

1. 学部別貸出比率

学部	基礎工学部	文学部	法学部	理学部	工学部	経済学部	人間科学部	その他
比率	19.6%	18.3%	16.3%	13.8%	11.0%	7.8%	5.2%	8.0%

2. 身分別・主題別貸出比率



大阪大学附属図書館館報発行要領について

大阪大学附属図書館館報「大阪大学図書館報」は昭和42年9月に第1号を刊行して以来20年余り幾多の変遷を経、現在通巻93号(vol. 22 No. 2)を刊行するに至りました。その間「館報」の編集に当り多くの諸先輩の心を心として引き継がれてきたのであるが、ここに「館報」の発行に係わる要領を従来からの経緯にてらし「大阪大学附属図書館館報発行要領」として作成したので紹介いたします。なお今後「館報」はこの「要領」により発行することになります。

大阪大学附属図書館館報発行要領

(趣旨)

第1条 この要領は、大阪大学附属図書館(以下「本学図書館」という。)の図書館報の編集及び刊行に関し、必要な事項について定める。

(名称)

第2条 本学図書館が発行する図書館報の名称は、「大阪大学図書館報〔英文名称: The Osaka University Library Bulletin〕(以下「館報」という。)とする。

(発行の目的)

第3条 館報は、大阪大学における図書館活動を広報し、また、国内外の図書館界の趨勢を紹介し、利用者とのコミュニケーションの充実を図ることにより、図書館業務の円滑化に資することを目的として発行する。

(編集組織)

第4条 館報の編集に関する事務を処理するため、本学図書館に大阪大学図書館報編集委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会は、館報編集に係る方針、掲載記事の決定及び記事の割付け校正を行う。

3 前項の決定事項は、発行責任者の決裁を受けなければならない。

(委員会)

第5条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

一 情報サービス課長

二 情報サービス課参考掛長

三 情報管理課長が推薦した情報管理課の職員2名

四 情報サービス課長が推薦した情報サービス課の職員1名

2 委員は、附属図書館長が委嘱する。

3 第1項第三号及び第四号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 委員に欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長等)

第6条 委員会に委員長を置き、情報サービス課長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を必要に応じ招集し、その議長となる。

3 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(館報連絡員)

第7条 第5条に定める委員に協力し、情報の提供等を行うため、館報連絡員を置く。

2 館報連絡員は、医学情報課長及び吹田分館業務主任が推薦した職員各1名とし、附属図

書館長が委嘱する。

3. 館報連絡員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4. 館報連絡員に欠員が生じた場合の後任の館報連絡員の任期は、前任者の残任期間とする。

(編集内容)

第8条 館報の編集内容は、次の項目で構成する。各項目の細部については、委員会で別に定める。

一 図書館に関する論説、随筆

二 本学図書館の活動・事業、業務に関する案内・紹介

三 大学図書館、学術情報システム全般に関する動向、ニュース

四 貴重図書、大型コレクション、特別コレクション等の資料紹介

五 図書館関係の規則、内規、会議等の記事

六 本学教官著作寄贈図書の紹介

七 各種図書館統計、人事、日程等

八 図書館資料の運用と利用に関して、全学的な相互理解と協力を深めるために効果ある
内容のもの

九 その他

(編集・発行者)

第9条 館報の編集・発行責任者は、次のとおりとする。

一 編集 大阪大学図書館報編集委員会

二 発行 大阪大学附属図書館

(発行責任者 附属図書館事務部長)

(発行及び出版の形態)

第10条 館報の発行及び出版の形態は、次のとおりとする。

一 規格 判型 B5判

二 卷号 従来よりの発行の巻・号及び通号を継続する。

三 配布先 別に定める。

2 発行回数は、原則として年6回、偶数月に発行する。ただし、必要あるときは、臨時に
特別号を発行することがある。

(事務)

第11条 委員会に関する事務は、情報サービス課参考掛において行い、館報の発行及び配布
に関する事務は、情報管理庶務掛において行う。

附 則

1 この要領は、昭和63年8月29日から施行する。

2 この要領施行後最初に委嘱される第5条第1項第三号及び第四号の委員並びに第7条第
2項の館報連絡員の任期については、第5条第3項及び第7条第3項の規定にかかわらず
昭和65年3月31日までとする。

いちょう祭展示会開催

5月1日の大学創立を記念して行われる「いちょう祭」が5月1日と5月2日の両日にわたって開催された。この事業の一環として、文学部、法学部、経済学部、附属図書館共催で5月2日(月)11時より16時までの間、附属図書館本館3階第2自由閲覧室において展示会が

開催され、学生・父兄および教職員の多数の見学者があり、盛況のうちに終了した。

今回は計画の段階で例年と異なる企画を検討してきたところ、文学部よりの出品として近世大阪画壇の絵画（懐徳堂文庫の作品を含む）14点、附属図書館より「特別コレクション」として「カント・コレクション」等4件72点を従来の展示品に加えて展示したことである。

展示品で重なものは次の諸品である。

○文学部出品

1. 待兼山遺跡発掘調査出土品
2. 藤井寺市野中古墳発掘調査出土品
3. 近世大阪画壇の絵画

月下双羊図、森狙仙筆、山水図 森周峯筆、墨竹図 木村兼葭堂筆、節分図 佐藤魚大筆、漁夫図 長山孔寅筆、曲水宴図 月岡雪斎筆、龍虎図 中井藍江筆、帰馬放牛図 谷文晁筆、宗六君子図 中井藍江筆、墨菊図 伝泉治筆、解師伐袁図 岩崎象外筆、象図 玉手棠洲筆、山水・花鳥図扇面 作者不明、仏名経 作者不明。

○法学部出品

1. 林子平 海国兵談 (1791)
2. 法曹至要抄 全三巻
3. 御成敗式目
4. 西周 万国公法 (1868)
5. ヨーロッパ法学上の古典 5種

○経済学部

1. 大阪三郷の水帳および附図
2. 鴻池善右衛門家「掛合控」
3. 鴻池善右衛門家米取引関係証文
4. 大阪の両替商富子助右衛門家「勘定帳」
5. 大阪の預り手形

○附属図書館

特別コレクション

1. カント・コレクション カント「純粹理性批判」(1781初版本) 他19点
2. サヴィニ一家旧蔵コレクション サヴィニー「中世ローマ法史」第二版 全7巻 他10点
3. ロバート・オウエン・コレクション オウエン「新任会観」(1813—14初版) 他15点
4. アダム・スミスコレクション スミス「諸国民の富の性質および諸原因に関する研究」(1776 初版) 他20点

本学関係の文化勲章受章者集績顕彰

会議

—分館長会議—

63. 7. 6 (水) 13:00~14:55 (本館・館長室)

- 報告事項：1. 和年64年度概算要求について。事務部長から資料に基づいて説明があった。
2. 文献複写業務について。一部変更することについて、情報サービス課長から報告があつた。

協議事項：1. 昭和63年度予算配分（案）について。情報管理課長から配分要領及び事業費・運営費の配分額について説明があり、審議の結果、了承された。2. 大阪大学附属図書館資料の不用決定及び廃棄に関する要領（案）について。情報サービス課長から説明があり、審議の結果了承された。3. 学術情報システムへの対応について。事務部長から学内LANへの対応について、また図書館におけるカード目録等について説明があった。

—図書館委員会—

63. 7. 6 (水) 15:00~17:19 (本館・会議室)

報告事項：1. 課の名称変更について、事務部長から文部省訓令の一部改正により、本館整理課及び閲覧課の名称がそれぞれ情報管理課及び情報サービス課に変更されたことについて報告があった。2. 主要行事について。事務部長から資料により図書館に関する各種行事及び委員会の活動状況の報告があった。3. 昭和64年度概算要求について。事務部長から資料どおり要求した旨の報告があった。4. 各地区運営委員会等について。中之島分館長及び吹田分館長からそれぞれ報告があった。5. 昭和62年度図書館利用状況について。資料により情報サービス課長から報告があった。6. 教養図書顧問教官との懇談会について。情報サービス課長から、今年度の教養図書の収書方針について報告があった。7. 文献複写業務について。一部変更することについて情報サービス課長から報告があった。8. NACSIS-IR, NACSIS-MAILについて。情報サービス課長から学術情報センターが行っているこれらのサービスについて資料により紹介があった。9. 大型コレクションについて。情報管理課から収書計画を文部省に提出した旨報告があった。10. 研修について。事務部長から図書館職員の再教育のための研修計画について資料により報告があった。

協議事項：1. 昭和63年度予算配分（案）について。情報管理課長から資料に基づき配分要領及び事業費の配分額について説明があり、審議の結果、承認された。2. 大阪大学附属図書館資料の不用決定及び廃棄に関する要領（案）について。情報サービス課長からこのことについて説明があり、審議の結果承認された。3. 学術情報システムの対応について。事務部長から学内LANの対応、目録のあり方について説明があった。

—中之島分館運営委員会—

63. 6. 8 (水) 16:00~17:00 (歯学部大会議室)

報告事項：1. 生命科学図書館および外国雑誌センター館にかかる昭和64年度概算要求についての前回（4.19）以降の経過。2. 第59回日本医学図書館協会総会（5.24）。3. その他。

協議事項：1. 覚書（案）について 2. 米国図書館視察団の派遣について 3. 大阪大学附属図書館資料の不用決定および廃棄に関する処理要領、および事務手続について 4. 松下会館取り壊し後の同会館内別置図書の利用について 5. 中之島分館会議室の使用について、以上の件について協議した結果、原案通り承認された。

—中之島分館運営委員会—

63. 8. 10(水) 15:00~17:00 (中之島分館会議室)

報告事項：1. 昭和63年度中之島分館事業費・運営費予算配分について 2. 昭和62年度中之島分館マイクロフィルム撮影等経費決算報告 3. その他

協議事項：1. 昭和63年度中之島分館資料費部局分担額について 2. 昭和63年度中之島

分館製本費の配分について 3. 昭和64年度外国雑誌購入および購入費について、以上3件（案）について資料にもとづき説明の後、質疑応答の結果、1および2については、原案通り承認され、3については次回継続協議となった。

—附属図書館吹田地区運営委員会—

63. 7. 27(水) 15:30~16:00 (吹田分館会議室)

報告事項：1. 委員の移動 2. 図書委員会（7月6日）について報告があった。

協議事項：1. 昭和63年度吹田分館予算の執行について、原案通り承認された。2. 専門雑誌の見直しについて、その手順が了承された。

記

報

故情報サービス課参考掛長、津田恭司さんは、去る6月13日約1ヶ月の入院による手当の甲斐もなく敗血症にてご逝去なさいました。ここに謹んでご冥福を祈りご報告いたします。

津田さんは昭和36年国学院大学文学科をご卒業の後、昭和38年8月大阪大学文学部図書掛に奉職されて以来、39年4月附属図書館受入掛、47年4月整理課受入掛長に昇任、51年5月同課目録掛長、53年6月同課と漢書目録掛長、55年5月閲覧課閲覧第一掛長等を経て60年4月同課参考掛長を歴任され、この間24年余り図書館職員一筋に勤められました。その仕事ぶり、篤実温厚な人柄、そして責任感の強さは本学図書館のみならず、他大学の図書館員の間でも認められていました。また一方本図書館報の編集、国公私立大学図書館協力委員会文献複写委員会委員として余人をもってかえがたい功績を残されました。

本学図書館にとって津田掛長を失ったことは痛根のいたりではありますが、残されたわれわれは津田掛長の心を心として日々の業務に生かすことを誓うものであります。

日 程

63. 5.19~20	日本医学図書館協会総会（第59回）	(ホテルプラザ)
63. 5.24	昭和63年度国立大学附属図書館事務部課長会議	(東京医科歯科大学)
63. 6. 8	生命科学図書館ワーキンググループ会合（第25回）	(中之島分館)
63. 6. 8	中之島分館運営委員会（第76回）	(中之島分館)
63. 6. 9	国公私立大学図書館協力委員会	(関西大学)
63. 6. 10	第57回近畿地区国公立大学図書館協議会総会	(ホリディ・イン京都)
63. 6. 23~24	第35回国立大学図書館協議会総会	(兵庫県公館他)
63. 6. 28	教養図書顧問教官との懇談会	(本館)
63. 7. 6	分館長会議	(本館)
63. 7. 6	図書館委員会	(本館)

63. 7.27 吹田地区運営委員会

(吹田分館)

人事

異動前の所属・職名	氏 名	異 動 内 容	発令年月日
	寺沢 佳子 真鍋 明子 徳元あや子 杉原美千子 木下みゆき	(採 用) 事務補佐員情報管理課会計掛 〃 〃 受入掛 〃 〃 庶務掛 〃 情報サービス課雑誌掛 〃 吹田分館目録掛	63. 7. 1 63. 8. 1 63. 9. 1 〃 〃
医学情報課運用掛文部事務官	瀬戸口洋子	(昇 任) 国立民族学博物館情報管理課 施設資料室文献図書係長	63. 8. 1
吹田分館運用掛長 薬学部分館図書主任	宮岸 朝子 南谷 照子	(配 置 換) 情報サービス課参考掛長 医学情報課参考調査協力掛主任 (歯学分室)	63. 8. 1 〃
人間科学部会計掛文部事務官 医学情報課目録掛 情報管理課受入掛 〃 洋書目録掛 〃 会計掛	園田 厚史 藤田 弘 山崎 隆史 西 知子 宮下 好和 名倉 愛子	情報管理課会計掛 〃 洋書目録掛 医学情報課目録掛 〃 運用掛 歯学部総務課会計掛 産業科学研究所図書室	〃 〃 〃 〃 〃 〃
医学情報課参考調査協力掛文部事務官	塩見 橘子	(転 任) 吹田分館運用掛長	63. 8. 1
国立民族学博物館情報管理課 施設資料室文献図書係長		(辞 職) (死 亡)	63. 6. 13 63. 6. 30 63. 7. 31 63. 8. 31
情報サービス課参考掛長 情報管理課会計掛事務補佐員 吹田分館目録掛事務補佐員 情報管理課庶務掛事務補佐員	津田 恭司 山本ア矢子 片山 有紀 山下 雅子		

昭和62年度 図書館の概況 (1)

館(室) 項目		本 館				中之島分館				吹田分館			薬学部 分館	合 計	
		本館	人間 科学部 図書室	理学部 図書室	基礎 工学部 図書室	中之島 分館	歯 学 分 室	微生物病 研究所 図書室	蛋白質 研究所 図書室	吹 田 分 館	産業科学 研究所 図書室				
蔵書 ・受入	蔵 書 数	1,116,033	120,476	133,945	108,255	262,550	※	28,898	13,733	338,909	42,651	32,520	2,197,970		
	年間図書受入数	44,444	6,229	3,698	3,756	11,801	1,044	1,387	668	8,436	1,112	849	83,424		
	現行雑誌 受入種類数	185	1,323	607	1,229	7,063	397	323	306	2,580	414	301	14,908		
	資料費(千円)	436,722	43,034	58,685	2,516	196,718	※	14,969	10,472	140,861	25,449	11,765	941,191		
施設 ・職員	建物面積(m ²)	9,488	543	667	453	2,503	200	267	288	5,170	387	374	20,340		
	閲覧座席数	866	53	52	45	164	4	13	23	495	24	50	1,789		
	職員数(内定員)	52(27)	4(4)	5(2)	5(5)	25(12)	21)	22)	22)	21(7)	22)	4(3)	124(67)		
利用 ・貸出	利用対 象者数	学生	7,520	618	1,015	1,380	1,054	543	4	90	3,890	113	290	16,517	
	教職員		1,300	95	266	328	1,530	275	221	195	1,030	160	87	5,487	
	入館者数		893,138	—	—	—	149,463	32,884	27,193	—	177,800	—	—	1,280,478	
	館外貸出人數		53,772	2,414	6,342	7,824	18,337	8,594	2,182	2,361	21,259	1,158	2,517	126,760	
	館外貸出冊数		98,556	4,084	10,731	12,572	33,992	10,714	3,082	2,760	34,920	2,921	3,451	217,783	
文 獻 複 写	受 付	部内 から	件 数	—	—	6,936	92,166	12,136	40,374	43,134	1,561	—	—	196,307	
		枚 数	20,289	—	166,143	184,285	553,000	72,816	242,244	258,823	22,188	228,612	291,365	2,039,765	
	学 内 か ら	件 数	2,068	25	2,059	1,439	5,461	314	5,236	1,759	471	4,012	604	23,448	
		枚 数	29,946	192	11,951	2,995	32,766	1,884	31,028	9,246	5,349	20,078	2,853	148,288	
	学 外 か ら	件 数	(海外68) 3,390	—	1,231	1,206	322,314	※	197	—	2,212	—	1,186	331,736	
		枚 数	35,066	—	9,512	8,270	1,933,884	※	1,499	—	13,212	—	6,126	2,007,569	
	依 頼	学内 へ	件 数	225	390	1,062	1,245	564	1,415	1,220	457	924	112	1,463	9,077
		学 外 へ	件 数	705	404	380	423	522	300	183	60	840	84	247	4,148
		他機関 へ	件 数	443	46	42	100	580	※	21	17	693	28	29	1,999
		国 外 へ	件 数	258	—	5	2	52	※	0	—	71	—	0	388
図 書 相 互 貸 借	学 内 へ	件 数	180	733	239	106	228	7	12	14	68	9	43	1,639	
	学 外 へ	件 数	369	—	—	0	36	※	4	—	50	—	2	461	
	学 内 か ら	件 数	223	110	16	15	104	106	53	12	69	2	97	807	
	学 外 か ら	件 数	197	—	—	0	25	6	2	—	23	—	0	253	
参 考 調 査	所 在 調 査		2,330	71	388	—	3,816	623	—	—	6,074	—	—	13,302	
	事 项 調 査		173	6	88	—	662	163	—	—	514	—	—	1,606	
	指 導 調 査		—	—	28	—	601	50	—	—	895	—	—	1,574	
	情 報 検 索		194	0	—	—	1,000	222	154	—	378	—	7	1,955	

※中之島会館に含む。

昭和62年度 図書館の概況(2)

区分	項目	蔵書数(和洋別)		計		蔵書数(備付別)		年間図書受入数		雑誌受入種類数		図書資料費(内訳)		(千円)			
		Ⓐ 和	Ⓑ 洋	Ⓐ+Ⓑ (Ⓐ+Ⓑ)	計	①図書 (部・館室) に備付	購入	寄贈	その他	計	購入	寄贈	その他	計	⑪+⑫ (⑪+⑫)	図書 雜誌	製本費
図書館(本館)	173,315	67,044	240,359	217,683	22,676	14,297	305	627	15,229	185	—	—	185	216,922	204,038	12,884	2,253
人文学部	143,982	132,870	276,852	96,690	180,162	7,096	1,165	1,430	9,691	447	—	—	447	59,399	52,071	7,328	1,455
法学部	70,032	86,742	156,834	31,991	124,843	4,421	187	600	5,208	425	—	—	425	45,634	32,067	13,567	545
経済学部	84,148	72,683	156,531	105,692	51,139	2,317	112	1,850	4,289	501	—	—	501	31,036	18,676	12,360	2,733
教育系	81,582	121,002	202,584	74,218	128,366	3,726	0	1,442	5,168	456	—	—	456	48,372	23,352	25,020	1,552
言語文化部	12,314	35,335	47,649	1,835	45,814	2,770	0	470	3,240	279	—	—	279	18,286	12,974	5,312	582
健体育部	4,910	696	5,606	0	5,606	667	111	31	809	43	—	—	43	4,602	3,380	1,222	56
社会経済研究所	15,825	13,493	29,318	0	29,318	551	29	230	810	209	—	—	209	12,471	5,924	6,547	349
小計	624,851	611,658	1,236,509	566,736	669,773	42,030	1,953	6,690	50,673	3,328	540	0	3,868	479,756	381,858	97,898	10,780
理学部(図書室)	21,134	112,811	133,945	38,390	95,555	1,174	532	1,932	3,698	512	95	0	607	58,685	13,302	42,002	3,331
基礎工学部(図書室)	32,114	76,141	108,255	42,631	65,624	39	1,623	3,750	1,006	223	0	1,229	66,565	22,237	44,328	2,516	
小計	53,248	188,952	242,200	81,021	161,179	3,268	571	3,615	7,454	1,518	318	0	1,836	125,250	35,539	86,330	5,887
合計	678,059	800,610	1,478,709	647,757	830,952	45,298	2,524	10,305	58,127	4,846	858	0	5,704	605,006	417,397	184,228	16,677
図書館(分館)	87,646	174,904	262,550	—	—	3,103	824	7,874	11,801	6,060	1,003	—	7,063	196,718	32,496	164,222	13,276
歯学分室	※	※	—	—	411	14	619	1,044	293	104	—	397	※	※	※	※	
微生物研究所図書室	5,923	22,975	28,898	22,328	6,570	343	74	970	1,387	198	125	—	323	14,969	4,218	10,751	1,481
蛋白質研究所図書室	1,275	12,458	13,733	11,945	1,788	117	14	537	668	98	208	—	306	10,472	894	9,578	826
微生物分館関係合計	94,844	210,337	305,181	34,273	8,358	3,974	926	10,000	14,900	6,649	1,440	—	8,089	222,159	37,608	184,551	15,583
図書館(分館)	60,171	40,283	100,454	—	—	640	51	1,042	1,733	240	821	—	1,061	15,330	6,337	8,993	1,385
吹工学部	82,202	137,714	219,916	—	—	2,296	43	2,884	5,223	1,279	—	—	1,279	106,616	34,385	72,231	4,269
溶接工学研究所	767	2,029	2,796	—	—	117	—	128	245	59	—	—	59	4,143	1,998	2,145	197
レーザー融合研究センター	984	1,993	2,977	—	—	87	—	241	328	35	—	—	35	3,173	1,225	1,948	367
核物理研究センター	2,634	5,926	8,560	—	—	244	—	277	521	51	—	—	51	7,068	2,166	4,842	437
大型計算機センター	1,381	2,825	4,206	—	—	280	5	101	386	95	—	—	95	4,591	2,120	2,471	154
産業科学研究所図書室	10,310	32,341	42,651	27,811	14,840	4,225	13	674	1,112	316	97	1	414	25,449	6,309	19,140	1,035
合計	158,449	223,111	381,560	27,811	14,840	4,089	112	5,347	9,548	2,075	918	1	2,994	166,310	54,540	111,770	7,844
葉学部分館	12,785	19,735	32,520	30,627	2,253	238	230	381	849	147	145	9	301	11,765	2,736	9,029	758
総合計	944,177	1,253,793	2,197,970	—	—	53,599	3,792	26,033	83,424	13,717	3,361	10	17,088	1,005,240	512,281	489,578	40,882